

# 【ジャパネスクドール ～ 長沼隆代先生の創作和紙人形～ミニ解説】



日光菩薩 [全身]

【関連サイト】 ※併せてご参照ください

◎長沼隆代HP(トップ)⇒ <http://www.c-able.ne.jp/~logu/>

〃 プロフィール紹介画面 ▼

<http://www.c-able.ne.jp/~logu/image2.htm>

◎ブログ「うつくしき日本」⇒ <http://takayodoll.exblog.jp/>

◎エキサイトブログ<アトリエ訪問> ⇒

[http://atelier.woman.excite.co.jp/interview/rid\\_2609/pid\\_3.html](http://atelier.woman.excite.co.jp/interview/rid_2609/pid_3.html)

針金を芯材として用い、肉付けして和紙を巻いて仕上げる。このオーソドックスな手法を基本として踏襲しながらも、オリジナルの技法も加味したのが、長沼先生の「創作」和紙人形～Japanesque Doll～です。その特徴をいくつか挙げますと・・・

## 特徴①: 表現の繊細さ

芯材のワイヤーを精妙に加工することで、人体の細かな動きや風を受けた着物の姿、指先の表情に宿る主人公の心理などまでも、繊細に表現

## 特徴②: 目と鼻を描く。台座に固定しない

顔に目と鼻を描く(和紙人形では珍しいとされています)ことで、表情・情を豊かに表現。また、足までしっかり作り込み、台座に接着・固定せず自立する」人形とする(これも珍しい)。このことにより、展示・レイアウトが自在となり、後述の物語性を高める一因ともなる

## 特徴③: 高い物語性

テーマ・時代・人物・・・等が明確に設定されている作品が多い。見ているだけで、自ずと物語の絵巻を紐解いていくような感覚を覚えるストーリー性

## 特徴④: 和紙そのものの風合い・美しさ

使用する主な和紙は、友禅和紙、および地元山口県の徳地(とくぢ)和紙。友禅和紙は、京都で考案された「着物と同じ柄」を持つ和紙。テーマや人物に沿って行われる和紙選び・柄選びに、繊細なセンスが発揮される。一方、徳地和紙には柄がないが、その清浄な白さと風合いを生かした作品も多い。

また、テーマによっては、無地の和紙をオリジナルで染色する場合もある